

# 対話型政治教育としての高校生との哲学対話と 「隠れたカリキュラム」

宇部工業高等専門学校

小川泰治

ogawa-t@ube-k.ac.jp

こども哲学 おとな哲学  
アーダコーダ



挑戦し、探究し、高く羽ばたく

宇部高専

# 1. 本発表の射程

- (ある種の) 「シティズンシップ教育」を念頭に置く
  - 特に、具体的な政治的テーマの知識理解を伴うものではなく、**民主主義を実行する主体の教育**という文脈

「政治的な素養を育むとは、具体的には、まず、政治の仕組みや原理について知ることはもちろんのこと、政治が対象とする社会、経済、国際関係など様々な分野において日本の現状はどうなっているのか、また課題は何かといったことについて理解することが必要です。

また、政治とは自分で判断することが基本ですので、**課題を多面的・多角的に考え、自分なりの考えを作っていく力**が必要です。さらには、**各人の考えを調整し、合意形成していく力**も政治には重要であり、とりわけ、**根拠をもって自分の考えを主張し説得する力を身に付けていくことが求められます。**」

(総務省・文部科学省(2022)『高等学校副教材 私たちが拓く日本の未来 有権者として求められる力を身に付けるために』 p. 7)

# 1. 本発表の射程

- 念頭に置く実践は、政治的なテーマを「問い」とする実践ではない
  - 大分県立中津北高校での「総合的な探究の時間」における哲学対話
  - 宇部工業高等専門学校での「倫理」や「プロジェクト学習」での哲学対話
- 大賀発表、西山発表との対比
  - 大賀発表：九州での「政治」を身近にする「こども哲学」は、テーマは政治的なもの、かつ大人と子どもによる哲学対話
  - 西山発表：「実践それ自体が子どもたちが政治的なコミュニティの中でどう生きるかを問う政治教育」
- **政治的（・宗教的・文化的）な対立が地域や生徒たちのあいだには現れていない**（ように私には見える）**空間での哲学対話**
  - 「非政治的な空間」における政治教育？
  - **九州で政治教育を目指し哲学対話をしようとするときの困難はどこにあるのか？（安本）**

# 1. 本発表の射程

## 考えたい問い

**対話型政治教育として哲学対話を学校で実践することが、かえって、意図せずうちに、シティズンシップに反するものを生徒に教授してしまうことがあるのではないか？**

## この問いを考えるために

2. 哲学対話とシティズンシップ教育の理論上のつながりを確認したうえで、
3. 「隠れたカリキュラム」の視点から、実践内部・外部双方に課題があるという仮説を示し、
4. 課題を乗り越えるための視点を（少し）提示する

## 2. 哲学対話とシティズンシップ教育

### ■ 本発表で念頭におく哲学対話

- 国内の教育現場、地域、ビジネス、臨床現場などで行われている、**あるテーマについて参加者とともに探究を進めていく対話型実践の総称**
- 「子どものための哲学」(Philosophy for Children=P4C)や「哲学カフェ」「哲学カウンセリング」「ソクラテック・ダイアログ」などの諸理論・諸実践からの影響
- 実践者や環境、クライアントによって、目的も手法も回数もさまざま

特に学校での実践はP4Cのハワイスタイルの影響を大きく受けている

- 「知的な安全性」を重視した場のづくり
- 子どもの「問い」を中心に進める
- 「コミュニティボール」による対話の進行（教員は共同探究者）

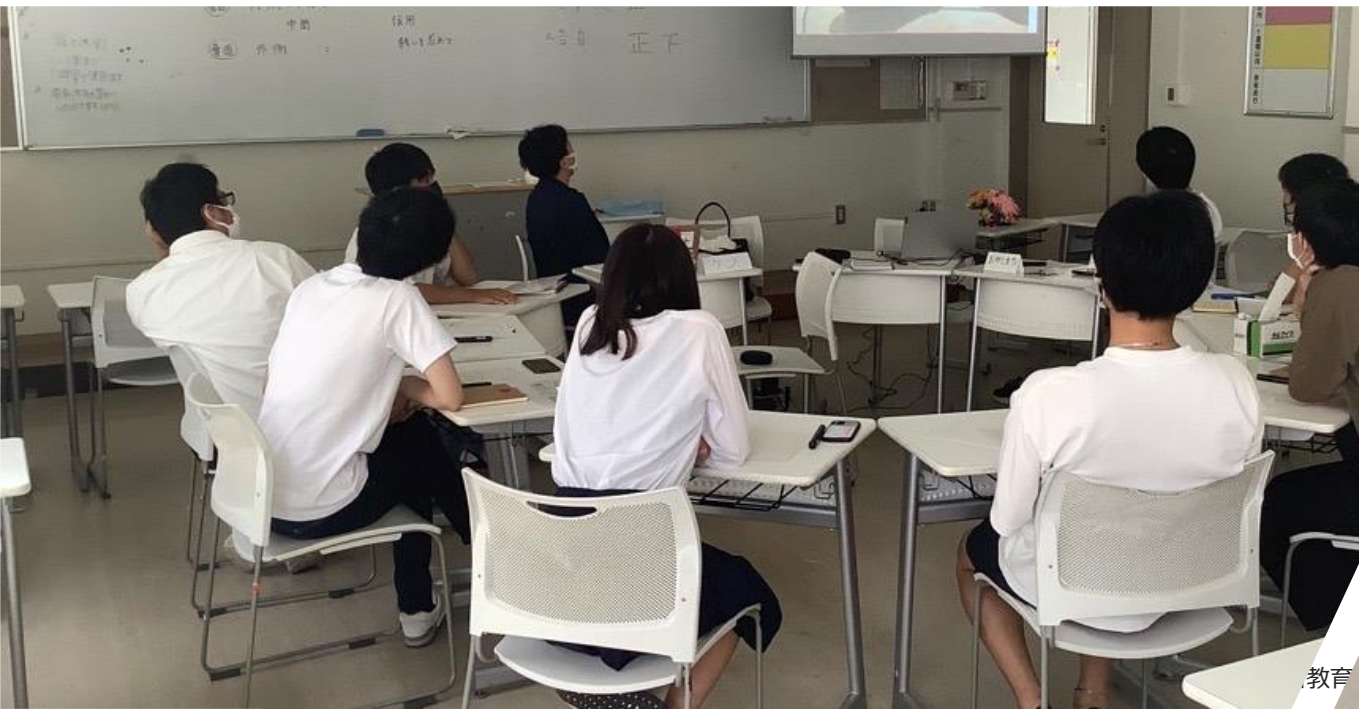
**⇒教員によるファシリテーションには独特のコツがある**





教







## 2. 哲学対話とシティズンシップ教育

### ■ 哲学（対話）教育とシティズンシップのつながり

「ユネスコによれば、哲学教育は、公民教育や政治教育のように直接に民主主義的主題を扱うのではなく、**民主主義社会に必要とされる資質や能力としての思考力や判断力を育成する**いわば**間接的な民主主義教育**である」 (西野 1997: 67)

「教育と文化的生活において**哲学的議論を発展させることは、市民の判断能力を涵養することによって市民の育成に大きく貢献する**し、そのことはいかなるデモクラシーにおいても**根本的**である」 (Roger-Pol Droit 1995: 15)

「**探究の共同体と哲学的な話し合い**はどちらも討論の一形式である。討論なくしては民主主義はないのだから、**学校でこういった話し合いのスキルを学ぶことは、民主的なシティズンシップについての教育へと行きつく**のである。」 (UNESCO 2007: 15)



## 2. 哲学対話とシティズンシップ教育

- 哲学対話（P4C）によって涵養されるシティズンシップ（堀越 2022）
  - 「保有する資格やメンバーシップ、諸権利をもつ権利といった観点から捉えられるシティズンシップ」とは異なっている
  - 政治リテラシーを身につけるという意味での政治教育とも区別される
  - 教師が「実質的価値」を押し付けるのでもない
  - **「公共的理性」（キムリック）、「手続き的価値」＝「自由、寛容、公正、真実の尊重、理由を示す議論の尊重」（クリック）という「道具的な徳性」**
    - これらはP4Cがしばしば重視してきた「理性的であることreasonableness」と重なる



**容易に答えの出ない問いを前に、異なる意見にも耳を傾け、互いの意見を批判しあいながら、粘り強く考えていく姿勢やスキル（小川）**

**先行研究などから理論上では、ある種のシティズンシップ教育に哲学対話は有効であると言える。だが、実践上はどうだろうか？**

### 3. 哲学対話の実践と「隠れたカリキュラム」

#### ■ 「隠れたカリキュラム hidden curriculum」

隠れたカリキュラムとは、**生徒が学校で学ぶ、書かれていない、非公式で、しばしば意図されていない教訓、価値観、視点のことである。**「公式の」カリキュラムは、生徒が参加する授業、レッスン、学習活動や教員が生徒に対して意図的に教える知識やスキルから構成されるが、隠れたカリキュラムは、生徒が学校にいるあいだに伝えられた暗黙のアカデミックで、社会的で、文化的なメッセージで構成される。

(the GLOSSARY OF EDUCATION REFORM, <https://www.edglossary.org/hidden-curriculum/>)

「隠れたカリキュラム」とは、**教育する側が意図する、しないに関わらず、学校生活を営む中で、児童生徒自らが学びとっていく全ての事柄を指すもの**であり、学校・学級の「隠れたカリキュラム」を構成するのは、それらの**場の在り方であり、雰囲気**といったものである。

(文部科学省 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」2008.)

Ex)ジェンダー規範の再生産、生徒の呼称、「いじめはよくない」という指導と実態、貧困地域とシチズンシップ教育…(古市 2023)

### 3. 哲学対話の実践と「隠れたカリキュラム」

#### ■ 哲学対話によるシティズンシップ教育の場合…

「公式のカリキュラム」で学ばれるとされているもの

**： 容易に答えの出ない問いを前にしても、異なる意見にも耳を傾け、互いの意見を批判しあいながら、粘り強く考えていく姿勢やスキル**

「隠れたカリキュラム」

**： 対話型政治教育の一環として学校で哲学対話をすることで、意図せずして、その対話の説明、進行、教員や場の雰囲気から、生徒（や教員に）伝わったり、学ばれたりしているもの**



# 3. 哲学対話の実践と「隠れたカリキュラム」

## ■ 哲学対話についての「公式の」説明の一例

(発表者が提案し、2023年度中津北高校全体で用いているもの)

哲学対話とは

日々の忙しい生活のなかでは通り過ぎてしま  
うような問いについてあえて立ち止まり、み  
んなで、ゆっくりじっくりと考えてみること

教員も！

「参加者みんなですぐに・じっくり考えを深める  
ことをいちばんの目的とした対話の時間である」

(土屋陽介『僕らの世界をつくりかえる哲学の授業』2019)



哲学対話とは

目指すのは、

- 人の話を上手に聞けるようになること
- 自分のもっていた「当たり前」に気づくこと
- 今まで疑問だと思っていたようなところに「問い」を見つけること

哲学史、哲学者の名前や意見は必要としない！

**Doing Philosophy!!**  
(テツガクしようぜ!!)

~~はい、論破！~~



# 3. 哲学対話の実践と「隠れたカリキュラム」

## ■ 哲学対話についての「公式の」説明の一例

(発表者が提案し、2023年度中津北高校全体で用いているもの)

### 哲学対話のルール (守ってほしいこと)

1. お互いを尊重 (リスペクト) し、バカにしない
2. 話したい人は手をあげてボールをもらってから話す
3. 話している人以外は話をよく聞く わりこまない
4. だれかに無理やり話をさせない
5. どの人にも伝わる言葉で、ゆっくり話す

だれも答えを知らない問いについて自分の意見を話すことはたいへんなこと。  
だからこそ、  
安心して話したり、考えたりできる場をみんなで作っていく。



### 哲学対話のところがまえ (やってみてほしいこと)

1. 急いで答えを出そうとしない
2. 「人それぞれ」は出発点 答えにしない
3. お互いに質問しあう
4. 意見が変わってもいい
5. わからないときは「わからない」と言おう

だれも答えを知らない問いを考えていくのはむずかしいこと。  
だからこそ、  
一緒に考えを深めることのできる場をみんなで作っていく。



### 3. 哲学対話の実践と「隠れたカリキュラム」

#### ■ 学校で行われる哲学対話によくある生徒・教員の反応

- 「**共感**してくれてうれしい」
- 「結局、**人それぞれ**ではないか」
- 「**答えがない**から楽しい」
- 「相手の意見への**批判はすべきではない**」
- 「**自分の頭で考える**」



いずれも哲学対話をしていると十分に想定される反応  
だが、ここに意図せざる（、政治教育の視点で見たときには必ずしも歓迎できない）メッセージが含まれているのではないか



### 3. 哲学対話の実践と「隠れたカリキュラム」

- 哲学対話についての「公式の説明」や実践内容から  
シティズンシップとは相反するメッセージが伝わっている？
  - 「共感してくれてうれしい」  
**同じ意見を歓迎して、違う意見を避けてしまう？**
  - 「結局、人それぞれではないか」
  - 「答えがないから楽しい」  
**合意形成を目指さなくてよい？**
  - 「相手の意見への批判はすべきではない」  
**自分の考えを主張し、説得しなくてよい？**
  - 「自分の頭で考える」  
**政治的なリテラシーの教育は必要ない？**

### 3. 哲学対話の実践と「隠れたカリキュラム」

■ 仮説：なぜシティズンシップとは（ように見える）相反する感想につながるのか

#### – 実践内部の要因

- ・ 哲学対話についての説明（先述）
- ・ P4Cのハワイスティルから影響を受けた国内の主流スタイル
  - 安心できる場づくり、お互いの話を聴く、円になり順番に話を回す…
  - **答えを出すことを急がない、意見への直接の応答や批判が起きづらい**

#### – 実践外部の要因

- ・ **「答えを出さない」話し合いとしての哲学対話を好む学校**
  - 学校のもつ風土や文化との関係、近年の「正解のない問いを考える」「探究」重視
  - 学校における**政治的中立性**との関係(ヘス 2021, 総務省・文科省 2022)



実践者、学習者双方が影響しあいP4Cは「非政治的なもの」になっている？  
（「政治」ではなく「哲学」が好まれている、と言ってよい？）

# ここまでのまとめ：「隠れたカリキュラム」という視点の意義

先行研究などから理論上では、ある種のシティズンシップ教育に哲学対話は有効であると言える。だが、実践上はどうだろうか？



実践上は、哲学対話によるシティズンシップ教育の実践が、意図せずして「非政治教育的な」メッセージを伝える可能性がある（「隠れたカリキュラム」）

Ex) 「共感」「人それぞれ」「批判しない」「答えを出さない」「自分で考える」…



「隠れたカリキュラム」の視点に立ち、自身の実践を反省したり、実践を行う教育環境やそれを受け取る生徒たちのもつ背景や前提を想像する必要性

- 生徒（・教員）は日常的に政治（教育）につながるものを日々無数に学習している

（Cf. RT全体の問題意識：九州・福岡の文化や風土）

- だが、どれくらいの期間、どのような前提や環境の場所で、どのように実践するかによって、対話の展開も、生徒たちが学びとるものも、大きく変わる

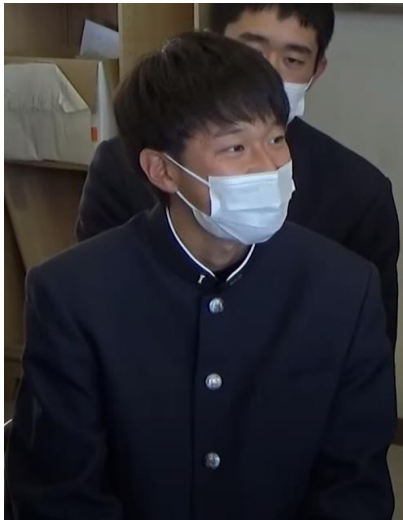


## 4. 「隠れたカリキュラム」を超えるために

### ■ 実際の対話で起きること

- 意見の違いを明確にぶつけあうこともある
- ある立場の誤りが明らかになることもある

Ex) 中津北高校2年生「探究」における哲学対話「時間はどうして大切なの？」



進行役の教員（担任）：

**「刺激を受けるような時間の使い方をすることで人生が充実したものになる、ということではないか」**

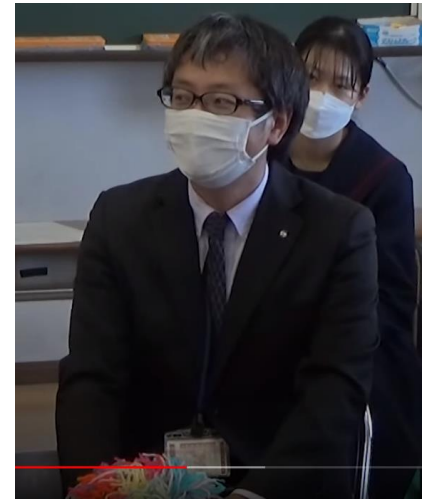
生徒：

**「いや、それ、違うと思います。」**

**「自分がしたいことが絶対に刺激があるものとは限らないから。」**

別の生徒：

**「（そもそも）時間を有効に使うという考えが好きではない」**



**どうすれば、このような場面を増やすことができるか？**

大分県教育庁チャンネル「わが校の魅力！大分県立中津北高校「深く、よく考える」を学ぶ「哲学対話」

<https://www.youtube.com/watch?v=Uz8x4ADhrCI>

## 4. 「隠れたカリキュラム」を超えるために

### ■ 「探究の共同体」としての継続的な実践

- 最初は「共感」「答えがなくて楽しい」「自分で考える」で十分すぎる成果
- 継続的な実践により「**教室を探求の共同体に作り替える**」（リップマン）
- 継続する中で「隠れたカリキュラム」に対応する具体的な実践も（cf. 補論）

### ■ 教員との連携、研修

- 教員のなかにある中立性への志向や、批判や対立への忌避へのアプローチ
- 教科学習との連動や学校の文化そのものへの挑戦

### ■ 学校内外の他の政治教育との共同：**哲学と政治の接続**

- 高等学校の「公共」内での実践
- 「政治を身近にすることも哲学」（テーマレクチャー＋哲学対話）

# まとめ：対話型政治教育としての哲学対話と「隠れたカリキュラム」

## ■ 哲学対話が与える政治を遠ざけるメッセージの可能性

- 「答えを出さない」「批判や対立を強調しない」「中立的な」対話として、「政治」を避けた結果、歓迎されている？

（「政治」ではなく「哲学」？）

- 実践レベルでは、哲学対話をすれば政治教育になるとは即断できない
- 「隠れたカリキュラム」の視点から、自身の実践や生徒教員をとりまく環境を反省的にとらえることの必要性
  - 九州で政治をテーマにした哲学対話をする事特有の困難（安本）

## ■ 対話型政治教育としての哲学対話のデザインに向けて

- 継続できる環境の確保「探究の共同体」
- 対象の子ども・生徒の課題、学校のもつ文化を把握する
- 他の実践とのコラボレーションや相補作用にも目をつける



## 補論

哲学対話の「隠れたカリキュラム」に  
対応するための具体的な実践や考察

## 東京都現代美術館

「あ、共感とかじゃなくて」 2023年7月15日(土)-11月5日



「あ、共感とかじゃなくて。」展では、「共感」することで安心して思考停止するのではなくて、共感をしないところからスタートして、新しい視点を手に入れて対話をしようと呼びかけています。では、共感とは何でしょうか？共感にできること、できないこととは何でしょうか？「共感」は、日常でよく使う言葉ですが、改めて考えてみると色々考えることができそうです。

この展覧会の関連プログラムとして、哲学対話を行います。「共感」についても、作品についても、何かひとつの捉え方を「正解」とみなすのではなくて、あれこれ対話をしながら考えてみます。

「あ、共感とかじゃなくて。」展 関連プログラム

**【受付終了】あ、「正解」で立ち止まるんじゃないくて。①**

～展覧会を観る前後に、のんびり哲学対話～

<https://www.mot-art-museum.jp/events/2023/08/20230815142028/>

# 「結局、人それぞれではないか」「答えがないから楽しい」はほんとうか

## ■ 「結局、人それぞれではないか」 (小川・岩内 2023)

- 対話における「人それぞれ」発言の類型化：哲学対話への根本疑義としての／根本疑義ではない（論破／SOSサイン／対立、批判したくない）
- 「人それぞれ」発言へのマニュアル的な対応への批判

## ■ 「答えがないから楽しい」 (岩内・小川 2022)

- 現象学的哲学対話：答えを通して到達する「普遍性」重視
- P4C：問いを通して見えてくる「差異」の重視

“「答え」は探究において常に目指されているものとして「ある」。ただし、答えをどのようなものと捉え、探究の過程で何を重視するかは、依拠する方法論によって異なる。”

## ■ メタ・コンセンサスの場としての哲学対話 (西山・村瀬・小川 2020)

- P4Cの民主性と熟議民主主義の相似
- P4Cにおける「コンセンサス」を「メタ・コンセンサス」として同定

“対話の帰結に関する全員一致のコンセンサス形成が困難な状況において、「対話の中で重大な意見の不一致があること」「異なる意見の価値を認めなければならない」「この問いは何を問題にしているのか」といった、対話の方向性、対話の規範、そして問いの前提などに関わる事柄を対話の参加者が認識・共有すること”

# 「相手の意見への批判はすべきではない」？

## ■ 宇部高専での「批判」をめぐるレクチャーと哲学カフェ feat. 山本和則さん

### 今日やること

人間の心にはさまざまな認知の歪み(バイアス)が元々備わっており、そのせいで物事をうまく考えられないことも多い。  
どうすれば少しでもマシになるだろうか？

「批判的思考(クリティカルシンキング)」はそのための一つの方法。

- 批判的思考について知る
- 批判的思考を体験する
- 批判(的思考)について対話的に考える

### 科学的探究におけるCT

例題: 次の主張にツッコミは入れられるだろうか？  
(以下の実験結果は、十分な証拠になっているだろうか？)

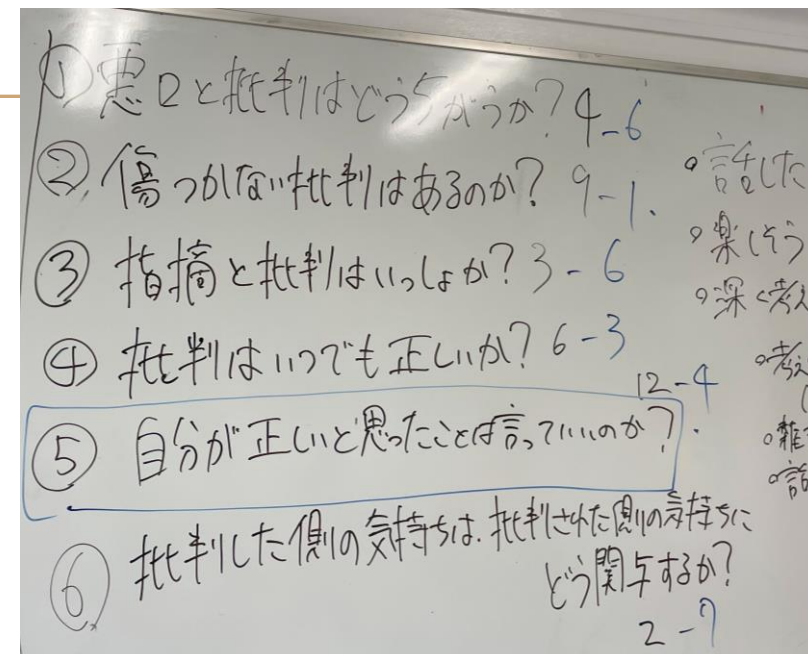
大根おろしはおろしたてのほうが辛味が強い。  
同じ大根で、30分前につくった大根おろしと、おろしたてのものとを、100人に同時に食べ比べてもらったら、おろしたてのほうが辛いという人が圧倒的に多かったという実験結果が出た。

### 思いやりの原則(principle of charity)

相手の言っていることを正しいことだと(まずは)考えてできるだけ筋の通っているように解釈してみる。

例題: この人の主張を筋が通るように解釈してみよう。

「たけのこの里」より「きのこの山」の方が優れたお菓子だ。  
だって私は「きのこの山」しか食べたことがないから。



2023年7月19日(水)



## ■ 自由に考えることの強調は、深く知ることをかえって遠ざける？

“勤務校の高専[では]…哲学対話をはじめりとして、そこから専門知へと共にアクセスしていく時間的な余裕はない。そして、学生たちは[…]哲学対話で取り上げたような問題について学ぶ機会をもつことはほとんどない。こういった状況下で“何を言ってもよい”ことを掲げこどもの哲学を行うことは、意図せずして、学生たちを専門知から遠ざけるという「隠れたカリキュラム」となっていないだろうか”。

## ■ P4Cと専門知は本来は矛盾しないはず

- 考えることによって、わからないことに出会い、知に謙虚になり、もっと知りたいという想いに接続するはず

## ■ 活発に自分の意見を述べる、「答え」を述べることを評価する実践をデザインしなおす必要性

- わからないことに徹すること
- 問いに対して問いで応答する

# 引用文献

- Roger-Pol Droit(1995). *Philosophy and Democracy in the World: a UNESCO survey*, UNESCO Publishing.
- UNESCO(2007). *Philosophy: A School of Freedom—Teaching philosophy and learning to philosophize: Status and prospects*, UNESCO Publishing.
- 岩内章太郎・小川泰治(2022). 「哲学対話に「答え」はないのか —子どもの哲学と現象学的哲学対話の観点から」, 『現代生命哲学研究』 (早稲田大学人間総合研究センター), Vol. 11, 57-81.
- 小川泰治・岩内章太郎(2023). 「「人それぞれ」発言は哲学対話に何を引き起こすのか」, 『思考と対話』 (日本哲学プラクティス学会), Vol. 5, 26-36.
- 小川泰治(2020). 「こどもの哲学と専門知—あるいは、自由に考えることと知ろうとすること」, 哲学プラクティス連絡会第6回大会, オンライン.
- 総務省・文部科学省(2022). 『高等学校副教材 私たちが拓く日本の未来 有権者として求められる力を身に付けるために』.
- ダイアナ・E・ヘス『教室における政治的中立性 論争問題を扱うために』春風社, 2021.
- 西野真由美(1997). 「オーストラリアにおける子どものための哲学教育—思考力を育成する道德教育のための一考察—」 『比較教育学研究』, vol. 23, 65-80.
- 西山溪・村瀬智之・小川泰治(2020). 「子どもの哲学と民主主義 —選好の変化とコンセンサス形成を可視化するワークの開発と実践—」, 『思考と対話』 (日本哲学プラクティス学会), Vol. 2, 26-37.
- 古市将樹(2023). 「教員にとっての隠れたカリキュラム論に関する一考察」 『常葉大学教育学部紀要』, vol.43, 93-104.
- 堀越耀介(2022). 「シティズンシップ教育としての「子どもとする哲学 (P4C)」 「民主的な教育」としての哲学対話を擁護する」 『倫理道德教育研究』, vol. 5, 17-33.